

2018

京都大学

大学院工学研究科・工学部

概要



1. 理念・アドミッションポリシー	02・03
2. ディプロマ・ポリシー	04・05
3. 沿革	06
4. 組織図	07
5. 大学院の専攻別講座等名、学部の学科別学科目名	08
6. 平成30年度役職者一覧	09
7. 教職員数	10
8. 学生数	11
9. 平成30年度入学状況	12
10. 卒業・修了状況及び学位授与者数	13
11. 研究生、外国人留学生、招へい外国人学者及び部局間協定一覧	14～16
12. 教育・研究プロジェクト等	17
13. 工学部公開講座・オープンセミナー	18
14. 図書関係	19
15. 予算関係及び建物面積	20
16. アクセスマップ	21





1. 理念・アドミッションポリシー

工学研究科の理念・目的

工学は、真理を探究し、その真理を核として人類の生活に直接・間接に関与する科学技術を創造する役割を担っており、地球社会の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。京都大学大学院工学研究科は、この認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を先導するとともに、高度の専門能力と創造性、ならびに豊かな教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成することをめざしています。

■工学研究科が望む学生像

工学研究科では、次のような入学者を求めます。

- ・工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを実現しようとする意欲を有する人。
- ・専門分野とこれに関連する諸分野において真理を探究するために必要な基礎知識を有し、それを踏まえた論理的思考と既成概念にとらわれない判断力を有する人。
- ・科学技術および社会の諸課題について、知識を総合しその解決に取り組む中で創造的に新しい科学技術の世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。
- ・他者の意見を理解し、自らの意見や主張をわかりやすく表明できるコミュニケーションの基礎的能力を持った人。

入学者選抜では、個別学力検査を実施し、学修を希望する専門分野の基礎的知識とそれを踏まえた論理的な思考能力に重点をおきつつ、英語の能力も含めて評価・選抜しています。博士入学者選抜では、前述の観点に加えて、研究を推進・展開できる能力および論理的に説明できる能力の評価も加えて選抜します。



Aクラスター



Bクラスター

工学部が望む学生像

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する。」ところにあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと見るということです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する。」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を主体とする学部である。」と考えられています。「基礎を重視する。」と言いますと、やや異質な印象を持たれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、「基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用展開や技術の発展を可能とするための必須条件である。」という理念の下に、この教育方針を採っています。

■工学部が望む学生像

このような方針の教育を受けてもらうために、次のような入学者を求めています。

- ・ 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ・ 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと確かめ、得られた情報や知識を整理統合し論理的に考察することによって、物事の本質を理解しようとする人。
- ・ 日本語・外国語を問わず、自らの意見や主張をわかりやすく発信する能力を身に着けるために必須の基礎的な言語能力とコミュニケーション能力を持った人。
- ・ 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、数学・理科・英語・国語の基礎学力の評価に重点を置いて、個別学力検査および特色入試を実施し、上述の観点から多様な人材を評価・選抜しています。

なお、特色入試では、上記の基礎学力に加えて、特筆すべき理系の能力を持つ人材を求めて、学科ごとに、入学を望む学生像に応じて、調査書、推薦書、顕著な活動実績の概要、学びの設計書、大学入試センター試験の成績、口頭試問の中から必要項目を選択・組み合わせて、人物を評価しています。



© クラスター

2. ディプロマ・ポリシー

学位

京都大学工学部は、定められた年限在学し、所定の単位数を取得し、特別研究（卒業研究）の遂行を通して、高度な研究者や技術者として次に記す知識と能力を発揮できる素地を培ったと認める者に、学士の学位を授与します。

- ・ 人・社会や自然に関する科学的知識、および、それに基づく公共に関する理解力、豊かな人間性、世界的視野で物事を見ることのできる能力。
- ・ 専門分野における基盤知識、および、それを踏まえた論理的思考能力。
- ・ 科学技術に関する諸課題について、知識を総合し、合理的に解決方法を考えることができる能力。
- ・ 他者の意見を理解し、自らの意見を的確に表明できるコミュニケーション能力。

修士

所定の期間在学し、工学研究科のカリキュラム・ポリシーに沿って設定した修士課程教育プログラムが定める授業科目を履修して、基準となる単位数（30 単位）以上を修得するとともに修士論文の審査及び試験に合格することが、修士（工学）の学位授与の必要要件です。修士論文の審査及び試験は、その論文が工学研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか、修士学位申請者が研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する幅広い専門的知識、学術研究における倫理性を有しているかどうか等を基に行われます。

なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して修士課程を修了することができます。

博士

所定の期間在学し、工学研究科のカリキュラム・ポリシーに沿って設定した博士後期課程プログラムが定める授業科目を履修して、基準となる単位数（10 単位）以上を修得するとともに博士論文の審査及び試験に合格することが、博士（工学）の学位授与の必要要件です。

博士論文の審査及び試験は、その論文が研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか、博士学位申請者が研究企画・推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識、学術研究における倫理性を有しているかどうか等を基に行われます。

なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して博士後期課程を修了することができます。



修士課程学位取得基準

修士課程の修了は、修士学位申請者が提出した修士論文が研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか、修士学位申請者が研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する幅広い専門的知識、学術研究における倫理性を有しているかどうか等を基に認定されます。

上記については、修士学位論文発表会等での口頭試問や、研究指導を受けている時に行った活動（研究室におけるゼミナール、On the Research Training、インターンシップ等）を通じて評価されます。

修士学位申請者は、修士学位論文の審査を研究科長に願い出ます。専攻長は、論文内容について発表会等を開催するとともに、当該論文の内容調査と申請者が修士課程を修了するに十分な能力・知識を有しているかの調査を行い、その結果を工学研究科会議に報告します。工学研究科会議は3分の2以上の構成員が出席した会議で調査結果に基づき判定を行います。

専攻によっては研究指導に際して進級審査等、また論文提出に際して中間報告・審査等の独自の規定を設けていることがあります。審査手順の詳細については所属専攻のホームページ等で確認してください。

博士後期課程学位取得基準

博士後期課程の修了は、博士学位申請者が提出した博士論文が研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか、博士学位申請者が研究企画・推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する高度で幅広い専門的知識、学術研究における高い倫理性を有しているかどうか等を基に認定されます。

上記については、博士学位論文の予備検討委員会、調査委員会ならびに公聴会での口頭試問や、研究指導を受けている時に行った活動（関連学会や学術誌への論文発表、国内・国際会議等での発表、研究室におけるゼミナール、On the Research Training、インターンシップ等）を通じて評価されます。

博士学位申請者は、博士学位論文の予備検討を所属専攻の専攻長に願い出ます。専攻長は予備検討委員会を設置し、提出された論文が博士学位論文の審査の請求に値するか否かを判断します。審査の請求に値すると認められた場合は、工学研究科長は論文調査委員会を設置します。調査委員会は、提出された論文について公聴会を開催するとともに、当該論文の調査と申請者が博士課程を修了するに十分な能力・知識を有しているかの調査を行い、その結果を工学研究科会議に報告します。工学研究科会議は3分の2以上の構成員が出席した会議で調査結果に基づき審査判定を行います。

専攻によっては研究指導に際して進級審査等、また論文提出に際して中間報告・審査等の独自の規定を設けていることがあります。審査手順の詳細については所属専攻のホームページ等で確認してください。

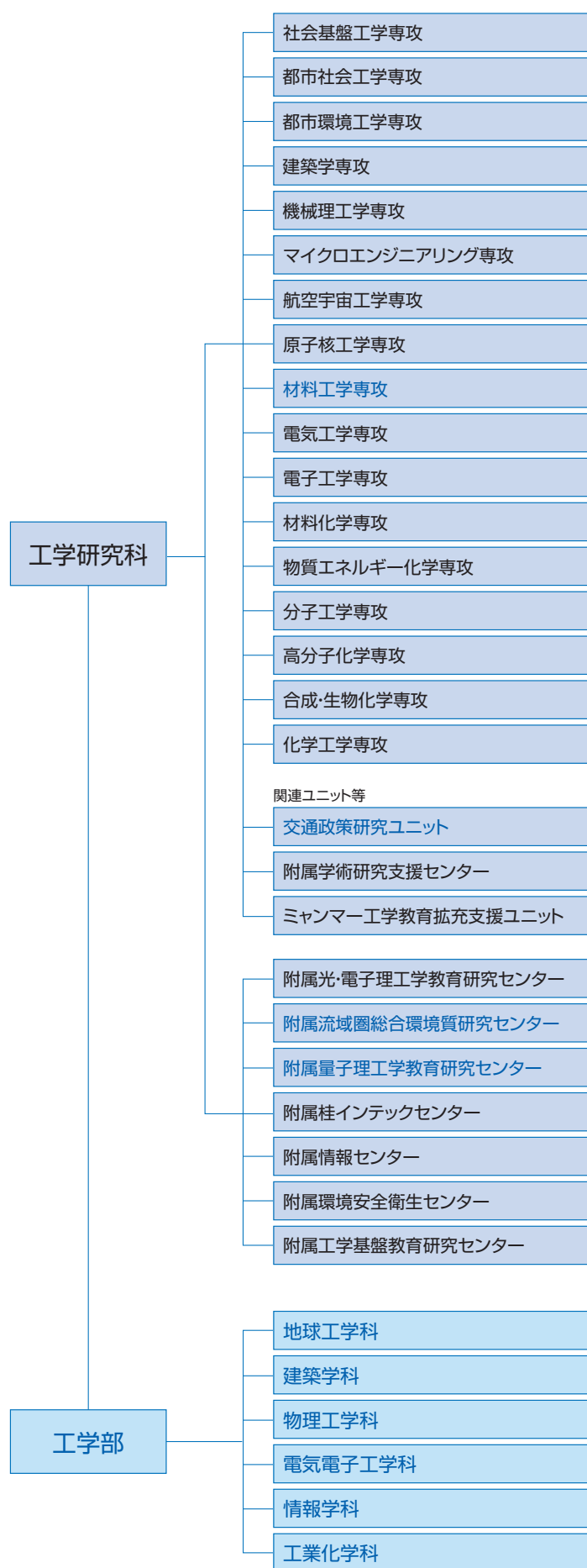


Aクラスター

3. 沿革

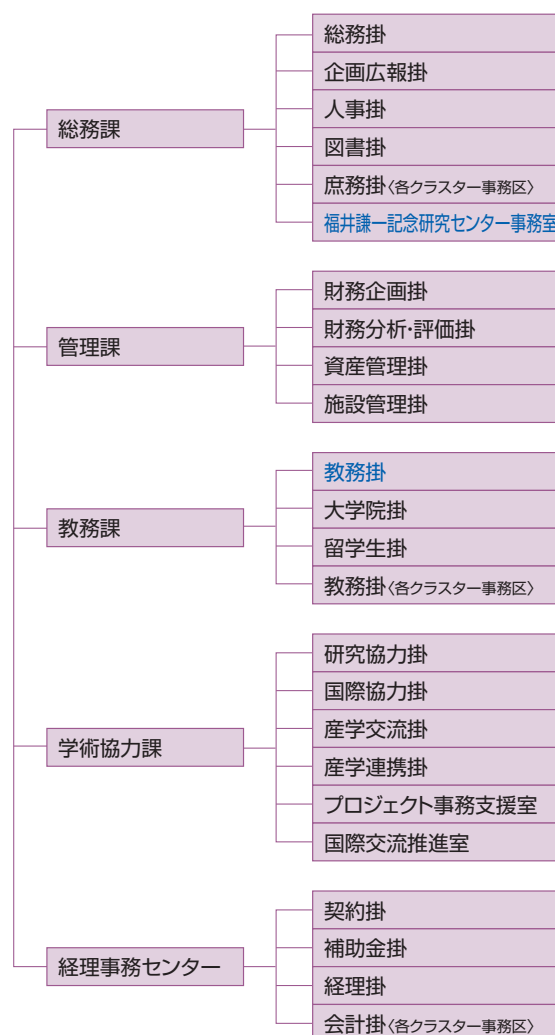
明治30.	6	京都帝国大学設置	8.	4	土木系及び建築系の改組
	9	理工科大学開設 土木工学科、機械工学科設置			学部の、土木工学科、衛生工学科、交通土木工学、資源工学科の4学科を地球工学科に、建築学科及び建築学第二学科の2学科を建築学科に改組
大正3.	31.	9 電気工学、採鉱冶金学、製造化学の3学科設置			また、研究科の7専攻(土木工学、衛生工学、交通土木工学、資源工学、建築学、建築学第二、環境地球工学)を土木工学専攻、環境工学専攻、土木システム工学専攻、資源工学専攻、建築学専攻、生活空間工学専攻、環境地球工学専攻に各々改組し、大学院重点化を完了
	7	理工科大学を理科大学と工科大学に分離			エネルギー科学研究科の新設に伴い、エネルギー応用工学専攻を廃止
	9	土木・機械・電気・採鉱冶金・工業化学科を設置			附属重質炭素資源転換工学実験施設の廃止
	8.	2 工科大学は工学部となる		9.	4 高度情報実験施設は、総合情報メディアセンターへの統合により廃止
昭和14.	9.	8 建築学科設置		10.	4 情報学研究科の新設に伴い、電子通信工学専攻、数理工学専攻、情報工学専攻及び応用システム科学専攻を廃止
	3	3 燃料化学科設置			附属イオン工学実験施設、附属メゾ材料研究センター及び附属環境質制御研究センターが、学部附属施設から研究科附属施設に転換
	15.	4 化学機械学科設置		11.	4 附属量子理工学研究実験センター設置
	16.	3 繊維化学科設置		13.	4 附属桂インテックセンター設置
	17.	3 採鉱冶金学科を鉱山学科と冶金学科に分離、航空工学科設置		14.	3 附属メゾ材料研究センター廃止
	21.	1 航空工学科廃止、応用物理学科設置		4	附属情報センター設置
	22.	9 京都帝国大学が京都大学と改称		15.	4 地球系及び建築系の改組、並びに電気系の名称変更
	24.	5 新制京都大学設置			研究科の5専攻(土木工学、土木システム、資源工学、環境工学、環境地球工学)を社会基盤工学、都市社会工学、都市環境工学の3専攻に改組
	28.	4 大学院工学研究科設置			また、生活空間工学専攻を廃止し、電子物性工学専攻を電子工学専攻に名称変更
	29.	4 電子工学科設置		10	桂キャンパス開学
	30.	4 応用物理学科を航空工学科に改称			電気工学、電子工学、材料化学、物質エネルギー化学、分子工学、高分子化学、合成・生物化学、化学工学の8専攻及び附属イオン工学実験施設が、桂キャンパスAクラスターへ移転
	32.	4 大学院工学研究科原子核工学専攻設置		16.	4 附属環境安全衛生センター設置
	33.	4 原子核工学科、衛生工学科設置		10	事務部が桂キャンパスBクラスターへ、建築学専攻がCクラスターへ移転
	34.	4 オートメーション研究施設、数理工学科設置		17.	4 研究科の4専攻(機械工学、機械物理学、精密工学、航空宇宙工学)を機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学の3専攻に改組
	35.	4 精密工学科、合成化学科設置			附属環境質制御研究センターを附属流域圏総合環境質研究センターに改組
	36.	4 電気工学第二学科、金属加工学科、電離層研究施設設置 繊維化学科を高分子化学科、化学機械学科を化学工学科に改組、改称		10	寄附講座「日中環境技術研究講座」設置(～H20.9)
	37.	4 機械工学第二学科設置		18.	10 社会基盤工学、都市社会工学、都市環境工学の3専攻が桂キャンパスCクラスターへ移転
	38.	4 交通土木工学科設置		19.	4 附属イオン工学実験施設を改組し、附属光・電子理工学教育研究センターを設置
	39.	4 建築学第二学科設置、鉱山学科を資源工学科に改称		5	寄附講座「エネルギー資源開発工学(JAPEX)講座」設置(～H24.3)
	41.	4 超高温プラズマ研究施設設置 燃料化学科を石油化学科に改組、改称		12	附属グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター設置
	45.	4 情報工学科設置		20.	4 寄附講座「社会基盤安全工学(JR西日本)講座」設置(～H25.3)
	50.	4 機械工学第二学科を物理工学科に改組、改称		7	寄附講座「先端電池基礎講座」設置(～H26.3)
	51.	5 超高温プラズマ研究施設が京都大学ヘリオートロン核融合研究センターとして発足		21.	4 寄附講座「先進交通ロジスティクス工学(阪神高速道路)講座」設置(～H24.3)
	53.	4 イオン工学実験施設設置			附属量子理工学研究実験センターを附属量子理工学教育研究センターに改組
	56.	4 電離層研究施設が京都大学超高層電波研究センターとして発足		11	低炭素都市圏政策ユニット設置
	58.	4 分子工学専攻設置		22.	4 安寧の都市ユニット設置(～H27.3)
	60.	4 環境微量汚染制御実験施設設置		24.	12 附属学術研究支援センター設置
	61.	4 重質炭素資源転換工学実験施設設置		25.	3 機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学の4専攻が桂キャンパスCクラスターへ移転
平成元.	62.	5 応用システム科学専攻設置		4	寄附講座「災害リスクマネジメント工学(JR西日本)講座」設置
	5	オートメーション研究施設廃止、高度情報開発実験施設設置		10	ミャンマー工学教育拡充支援ユニット設置
	3.	4 環境地球工学専攻設置		26.	4 「インフラ先端技術共同研究講座」設置
	4.	4 メゾ材料研究センター設置		5	低炭素都市圏政策ユニットを交通政策研究ユニットに改組
	5.	4 化学系の改組		27.	4 「PCFC共同研究講座」設置
		学部の5学科(工業化学、石油化学、化学工学、高分子化学、合成化学)を工業化学科に、研究科の5専攻(学科に同じ)と分子工学専攻を材料化学、物質エネルギー化学、分子工学、高分子化学、合成・生物化学、化学工学の6専攻に改組		28.	6 「フロー型エネルギー貯蔵研究講座」設置
	6.	6 物理系の改組		29.	4 寄附講座「非鉄製錬学講座」設置
		学部の7学科(機械工学、冶金学、航空工学、原子核工学、精密工学、金属加工学、物理工学)を物理工学科に、研究科の7専攻(学科に同じ)を、機械工学、機械物理学、精密工学、エネルギー応用工学、原子核工学、材料工学、航空宇宙工学の7専攻に改組			寄附講座「優しい地球環境を実現する先端電気機器工学講座」設置
	7.	4 電気系及び情報系の改組		30.	4 附属グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センターを附属工学基盤教育研究センターに改組
		学部の、電気工学科、電子工学科、電気工学第二学科の3学科を電気電子工学科に、数理工学科及び情報工学科の2学科を情報学科に、研究科の6専攻(電気工学、電子工学、電気工学第二、数理工学、情報工学、応用システム科学)を電気工学専攻、電子物性工学専攻、電子通信工学専攻、数理工学専攻、情報工学専攻、応用システム科学専攻に各々改組			「インフラ先端技術産学共同講座(旧:インフラ先端技術共同研究講座)」設置(更新)
		環境微量汚染制御実験施設を環境質制御研究センターに名称変更			「プロトニックセラミックス産学共同講座(旧:PCFC共同研究講座)」設置(更新)

4. 組織図



黒字：桂地区 青字：吉田地区等

桂地区(工学研究科)事務部



黒字：桂地区 青字：吉田地区等

5. 大学院の専攻別講座等名、学部の学科別学科目名

1. 大学院の専攻別講座等名

大学院	専 攻	講 座
工学研究科 17専攻 83講座	社会基盤工学専攻	応用力学、資源工学、構造工学、水工学、地盤力学、空間情報学、都市基盤設計学
	都市社会工学専攻	都市社会計画学、交通マネジメント工学、地震ライフライン工学、構造物マネジメント工学、河川流域マネジメント工学、ジオマネジメント工学、都市基盤システム工学、地球資源学
	都市環境工学専攻	環境デザイン工学、環境システム工学、環境衛生学
	建築学専攻	建築保全再生学、人間生活環境学、建築史学、建築構法学、建築環境計画学、建築設計学、建築構造学、建築生産工学、都市空間工学、居住空間学、環境材料学、環境構成学
	機械理工学専攻	機械システム創成学、生産システム工学、機械材料力学、流体理工学、物性工学、機械力学、バイオエンジニアリング
	マイクロエンジニアリング専攻	構造材料強度学、ナノシステム創成工学、ナノサイエンス、マイクロシステム創成
	航空宇宙工学専攻	航空宇宙力学、航空宇宙基礎工学、航空宇宙システム工学
	原子核工学専攻	量子ビーム科学、量子物質工学、核エネルギー工学
	材料工学専攻	材料設計工学、材料プロセス工学、先端材料物性学、材料物性学、先端材料機能学、材料機能学
	電気工学専攻	先端電気システム論、システム基礎論、生体医工学、電磁工学
	電子工学専攻	集積機能工学、電子物理工学、電子物性工学、量子機能工学
	材料化学専攻	機能材料設計学、無機材料化学、有機材料化学、高分子材料化学、ナノマテリアル
	物質エネルギー化学専攻	エネルギー変換化学、基礎エネルギー化学、基礎物質化学、触媒科学
	分子工学専攻	生体分子機能化学、分子理論化学、量子機能化学、応用反応化学
	高分子化学専攻	先端機能高分子、高分子合成、高分子物性
	合成・生物化学専攻	有機設計学、合成化学、生物化学
	化学工学専攻	環境プロセス工学、化学工学基礎、化学システム工学
附属教育研究 施設等	光・電子理工学教育研究センター	平成19年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	流域圏総合環境質研究センター	平成17年 4月開設 大津市由美浜1の2
	量子理工学教育研究センター	平成21年 4月開設 宇治市五ヶ庄
	桂インテックセンター	平成13年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	情報センター	平成14年 5月開設 京都市西京区京都大学桂
	環境安全衛生センター	平成16年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	工学基盤教育研究センター	平成30年 4月開設 京都市西京区京都大学桂
	交通政策研究ユニット	平成26年 5月開設 京都市中京区烏丸通四条上ル笋町688
	学術研究支援センター	平成24年12月開設 京都市西京区御陵大原1の30
	ミャンマー工学教育拡充支援ユニット	平成25年 9月開設 京都市西京区京都大学桂

2. 学部の学科別学科目名

学部	学 科	学 科 目
工学部 6学科 15学科目	地球工学科	土木工学、環境工学、資源工学
	建築学科	建築学
	物理工学科	機械システム学、材料科学、エネルギー応用工学、原子核工学、宇宙基礎工学
	電気電子工学科	電気電子工学
	情報学科	計算機科学、数理工学
	工業化学科	創成化学、工業基礎化学、化学プロセス工学

6. 平成30年度役職者一覧

工学研究科長・工学部長、副理事	
	大嶋 正裕
副研究科長等	
教育研究評議会評議員	榎木 哲夫
教育研究評議会評議員	米田 稔
	西山 峰広
	鈴木 基史
	関 修平
	松原英一郎
	竹内 繁樹
専攻長	
社会基盤工学専攻	八木 知己
都市社会工学専攻	林 為人
都市環境工学専攻	高岡 昌輝
建築学専攻	小椋 大輔
機械理工学専攻	平方 寛之
マイクロエンジニアリング専攻	松原 厚
航空宇宙工学専攻	江利口浩二
原子核工学専攻	横峯 健彦
材料工学専攻	杉村 博之
電気工学専攻	松尾 哲司
電子工学専攻	白石 誠司
材料化学専攻	三浦 清貴
物質エネルギー化学専攻	阿部 竜
分子工学専攻	田中 庸裕
高分子化学専攻	中村 洋
合成・生物化学専攻	森 泰生
化学工学専攻	松坂 修二

施設長	
附属光・電子理工学教育研究センター	野田 進
附属流域圏総合環境質研究センター	田中 宏明
附属量子理工学教育研究センター	高木 郁二
附属桂インテックセンター	榎木 哲夫
附属情報センター	松尾 哲司
附属環境安全衛生センター	前 一廣
附属工学基盤教育研究センター	鈴木 基史
学科長	
地球工学科	河野 広隆
建築学科	小林 広英
物理工学科	松野 文俊
電気電子工学科	和田 修己
情報学科	高木 直史
工業化学科	秋吉 一成
事務部	
事務部長	疋田 寛
総務課長	岡田 幸美
課長補佐	豊田 和彦
管理課長	一色 博
課長補佐	河田 友彦
課長補佐	足立 融正
教務課長	長谷川敏之
課長補佐	東 敏樹
課長補佐	横井 邦夫
学術協力課長	半田 智子
課長補佐	浴田富美代
経理事務センター長	山本 誠

7. 教職員数

》教員

(黒字：桂地区、青字：吉田地区等) 平成 30 年 5 月 1 日現在

区 分	教授	准教授	講師	助教	合 計
社会基盤工学専攻	13 (3)	13 (2)	2	9 (1)	37 (6)
都市社会工学専攻	8 (3)	12		7	27 (3)
都市環境工学専攻	3 (1)	5 (1)	2	4 (1)	14 (3)
建築学専攻	13	9		10	32
機械理工学専攻	12	7	3	9	31
マイクロエンジニアリング専攻	4	4	2	2	12
航空宇宙工学専攻	7	3 (1)	3	5	18 (1)
原子核工学専攻	6	5	2	3	16
材料工学専攻	10	13		10	33
電気工学専攻	8	2 (1)	1	4	15 (1)
電子工学専攻	6	7		6	19
材料化学専攻	8	5	2	6	21
物質エネルギー化学専攻	8 (1)	5 (1)	1	8 (1)	22 (3)
分子工学専攻	5	4	1	5	15
高分子化学専攻	5 (1)	6	1	5	17 (1)
合成・生物化学専攻	7	6	2	9	24
化学工学専攻	8	6	2	7	23
附属光・電子理工学教育研究センター	1		2	2	5
附属流域圏総合環境質研究センター	2	1		1	4
附属量子理工学教育研究センター		2			2
附属桂インテックセンター					0
附属情報センター			[2]		[2]
附属環境安全衛生センター		[1]	[1]		[2]
附属工学基盤教育研究センター			5		5
合 計	134 (9)	115 (6) [1]	31 [3]	112 (3)	392 (18) [4]
桂地区 合計	122 (9)	99 (6) [1]	31 [3]	101 (3)	353 (18) [4]
吉田地区等 合計	12	16		11	39

注1：表中の()内は大学院地球環境学堂、大学院経営管理研究部、国際高等教育院の流動教員で外数

注2：表中の[]内は兼務教員で外数

》職員

(黒字：桂地区、青字：吉田地区等) 平成 30 年 5 月 1 日現在

区 分	事務職員	教務、技術職員	合 計
社会基盤工学専攻		3	
都市社会工学専攻		2	
都市環境工学専攻		2	
建築学専攻		2	
機械理工学専攻		5	
マイクロエンジニアリング専攻		1	
航空宇宙工学専攻			
原子核工学専攻		2	
地球工学科	地球工学科事務室	3	3
建築学科	建築学科事務室	2	2
材料工学専攻		4	4
物理工学科	物理工学科事務室	3	3
電気工学専攻			
電子工学専攻			
材料化学専攻			
物質エネルギー化学専攻		1	
分子工学専攻		1	
高分子化学専攻		1	
合成・生物化学専攻		3	
化学工学専攻		1	
電気電子工学科	電気電子工学科事務室	3	3
工業化学科	工業化学科事務室	4	4
情報学科		1	1
附属桂インテックセンター		2	2
附属情報センター		3	3
附属環境安全衛生センター		5	5
	事務室：桂	60	4
	事務室：吉田	7	1
合 計		119	44
桂地区 合計		97	38
吉田地区等 合計		22	6

8. 学生数

1. 大学院

(黒字：桂地区、青字：吉田地区等) 平成 30 年 5 月 1 日現在

専攻	区 分	修士課程		博士後期課程						合 計	
		1 年次	2 年次	1 年次		2 年次		3 年次			
				4 月入学	10 月入学	4 月入学	10 月入学	4 月入学	10 月入学	4 月入学	10 月入学
社会基盤工学		84	88	8	6	8	2	13	9	201	17
都市社会工学		69	62	20	7	9	8	16	7	176	22
都市環境工学		37	45	6	6	6	8	12	9	106	23
建築学		80	83	8	1	12	3	15	4	198	8
機械理工学		62	64	7	4	5	1	14	3	152	8
マイクロエンジニアリング		30	29	3	1	3	0	3	2	68	3
航空宇宙工学		29	26	3	0	1	0	5	0	64	0
原子核工学		22	21	7	0	9	0	9	3	68	3
材料工学		45	42	9	3	6	2	8	2	110	7
電気工学		46	44	9	1	5	1	5	2	109	4
電子工学		31	34	7	0	7	1	4	2	83	3
材料化学		33	32	4	1	6	0	8	0	83	1
物質エネルギー化学		40	42	6	2	6	2	9	0	103	4
分子工学		36	34	7	0	9	0	7	0	93	0
高分子化学		46	51	10	0	7	1	9	2	123	3
合成・生物化学		34	31	5	0	6	0	7	2	83	2
化学工学		43	39	2	1	3	1	6	2	93	4
合 計		767	767	121	33	108	30	150	49	1913	112
(桂地区合計)		722	725	112	30	102	28	142	47	1803	105
(吉田地区合計)		45	42	9	3	6	2	8	2	110	7

2. 学部

平成 30 年 5 月 1 日現在

学科	区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
地球工学		193	186	187	251	817
建築学		82	84	82	103	351
物理工学		242	241	241	312	1036
電気電子工学		135	138	134	180	587
情報学		96	93	100	149	438
工業化学		242	242	241	314	1039
合計		990	984	985	1309	4268

9. 平成30年度入学状況

》1. 大学院

修 士 課 程				
専 攻	入学定員	入学志願者	専 攻	入学者数
社会基盤工学	58	138 (39)	社会基盤工学	65 (19)
都市社会工学	57		都市社会工学	59 (10)
都市環境工学	36	32 (8)	都市環境工学	30 (7)
建築学	75	77 (17)	建築学	67 (13)
機械理工学	59	158 (17)	機械理工学	55 (7)
マイクロエンジニアリング	30		マイクロエンジニアリング	28 (2)
航空宇宙工学	24		航空宇宙工学	27 (2)
原子核工学	23	33 (2)	原子核工学	21 (1)
材料工学	38	53 (4)	材料工学	43 (2)
電気工学	38	82 (17)	電気工学	41 (5)
電子工学	35		電子工学	27 (4)
材料化学	29	203 (19)	材料化学	31 (2)
物質エネルギー化学	39		物質エネルギー化学	37 (3)
分子工学	35		分子工学	33 (3)
高分子化学	46		高分子化学	44 (2)
合成・生物化学	32		合成・生物化学	32 (2)
化学工学	34	47 (6)	化学工学	38 (5)
合計	688	823 (129)	合計	678 (89)

注：表中の()内は外国人留学生で外数

博 士 後 期 課 程				
専 攻	入学定員	入学志願者	専 攻	入学者数
社会基盤工学	17	7 [3] (8)	社会基盤工学	7 [3] (7)
都市社会工学	17	13 [5] (14)	都市社会工学	13 [5] (14)
都市環境工学	10	5 [2] (8)	都市環境工学	4 [2] (8)
建築学	22	8 [2] (1)	建築学	8 [2] (1)
機械理工学	16	8 [5] (3)	機械理工学	8 [5] (3)
マイクロエンジニアリング	7	4 [1]	マイクロエンジニアリング	4 [1]
航空宇宙工学	7	2 [1] (1)	航空宇宙工学	2 [1] (1)
原子核工学	9	5 [1] (3)	原子核工学	5 [1] (2)
材料工学	10	6 [3] (6)	材料工学	6 [3] (6)
電気工学	10	6 [1] (4)	電気工学	6 [1] (4)
電子工学	10	6 (1)	電子工学	6 (1)
材料化学	9	3 (3)	材料化学	3 (2)
物質エネルギー化学	11	5 [1] (3)	物質エネルギー化学	5 [1] (3)
分子工学	10	4 (3)	分子工学	4 (3)
高分子化学	15	8 [1] (2)	高分子化学	8 [1] (2)
合成・生物化学	10	6 (1)	合成・生物化学	5
化学工学	7	3 [1]	化学工学	3 [1]
合計	197	99 [27] (61)	合計	97 [27] (57)

注：表中の[]内は社会人特別選抜で内数、()内は外国人留学生で外数

平成29年度10月期入学志願者数・入学者数と平成30年度4月期入学志願者数・入学者数の合計

》2. 学部

学 科	区 分	入学定員	入学志願者	入学者数		
				男	女	計
地球工学		185	384 (21)	165 (6)	28 (6)	193 (12)
建築学		80	316 (9)	65 (1)	17 (0)	82 (1)
物理工学		235	853 (19)	225 (5)	17 (2)	242 (7)
電気電子工学		130	387 (8)	130 (3)	5 (2)	135 (5)
情報学		90	443 (30)	90 (2)	6 (3)	96 (5)
工業化学		235	463 (15)	204 (3)	38 (4)	242 (7)
合 計		955	2846 (102)	879 (20)	111 (17)	990 (37)

注：表中の()内は外国人留学生で内数。入学志願者は第1志望学科

10. 卒業・修了状況及び学位授与者数

1. 大学院修了者数（専攻別）

専攻	区 分	修士課程		博士後期課程
		平成 29 年度	累計	平成 30 年 5 月 1 日現在 研究指導認定退学者累計
工業化学			1,263	212
石油化学			758	137
合成化学			582	157
機械工学			1,154	78
物理学			462	38
機械物理学			212	6
精密工学			860	56
冶金学			634	47
金属加工学			567	43
エネルギー応用工学			57	2
航空工学			388	32
電子物性工学			227	15
電気工学第二			730	67
電子通信工学			110	2
数理工学			785	84
情報工学			508	44
応用システム科学			342	10
土木工学			1,996	143
交通土木工学			598	14
土木システム工学			240	23
資源工学			681	40
衛生工学			620	54
環境工学			205	8
環境地球工学			501	30
建築学第二			514	51
生活空間学			159	17
材料化学		29	648	35
物質エネルギー化学		40	852	57
分子工学		33	941	64
高分子化学		51	1,992	286
合成・生物化学		34	709	78
化学工学		35	1,482	124
原子核工学		21	1,143	147
材料工学		43	847	19
電気工学		48	1,477	105
電子工学		33	1,296	99
建築学		75	2,112	178
社会基盤工学		76	816	39
都市社会工学		72	766	37
都市環境工学		29	835	43
機械理工学		53	684	24
マイクロエンジニアリング		30	306	20
航空宇宙工学		26	444	27
合 計		728	32,503	2,792

2. 博士学位授与者数

平成 30 年 5 月 1 日現在

区 分		工学博士
旧制	大正 9 年 6 月以前の学位令によるもの	42 (28)
	大正 9 年 7 月以降の学位令によるもの	1,338
新制	大学院博士課程修了者	4,495
	論文提出によるもの	4,168
合 計		10,043 (28)

注：表中の()内は推薦によるもので内数。

3. 学部卒業者数（学科別）

学 科	年 度	昭和 27 年度～ 平成 28 年度	平成 29 年度	累計
土木工学		3,222		3,222
機械工学		2,122		2,122
電気工学		2,112		2,112
鉱山学		357		357
資源工学		1,073		1,073
冶金学		1,532		1,532
工業化学		2,125		2,125
建築学		2,207		2,207
燃料化学		443		443
石油化学		1,296		1,296
化学機械学		295		295
化学工学		1,244		1,244
高分子化学		1,225		1,225
繊維化学		250		250
応用物理学		116		116
電子工学		1,606		1,606
航空工学		810		810
原子核工学		714		714
衛生工学		1,390		1,390
数理工学		1,448		1,448
精密工学		1,379		1,379
合成化学		1,259		1,259
電気工学第二		1,447		1,447
金属加工学		1,220		1,220
機械工学第二		505		505
交通土木工学		1,284		1,284
建築学第二		1,149		1,149
情報工学		1,037		1,037
物理学		480		480
(新) 工業化学		4,822	248	5,070
(新) 物理学		4,665	239	4,904
電気電子工学		2,498	131	2,629
情報学		1,656	99	1,755
地球工学		3,359	181	3,540
(新) 建築学		1,490	77	1,567
合 計		53,837	975	54,812

11. 研究生、外国人留学生、招へい外国人学者及び部局間協定一覧

1. 研究生等受入れ状況

平成 30 年 5 月 1 日現在

専攻・学科	区 分	研究生	研修員	特別聴講 学生	特別研究 学生	短期交流 学生	合計
社会基盤工学		6 (5)					6 (5)
都市社会工学		4 (4)					4 (4)
都市環境工学		1 (1)				1 (1)	2 (2)
建築学		1		2 (2)	2 (2)		5 (4)
機械理工学		1 (1)	2	2 (2)	2 (2)		7 (5)
マイクロエンジニアリング		2 (2)	1				3 (2)
航空宇宙工学		1 (1)					1 (1)
原子核工学							
材料工学		2 (2)			1 (1)		3 (3)
電気工学			1				1
電子工学			1		1 (1)		2 (1)
材料化学		2 (1)	1				3 (1)
物質エネルギー化学			1				1
分子工学		1 (1)					1 (1)
高分子化学							
合成・生物化学							
化学工学				1 (1)			1 (1)
地球工学科				1 (1)			1 (1)
建築学科				1 (1)		1 (1)	2 (2)
物理工学科				5 (5)			5 (5)
電気電子工学科				3 (3)			3 (3)
情報学科				4 (4)			4 (4)
工業化学科						4 (4)	4 (4)
合 計		21 (18)	7	19 (19)	6 (6)	6 (6)	59 (49)

注1：表中の（ ）内は、外国人で内数

注2：研修員は受託研究員を含む



ローム記念館



ローム記念館大ホール

2. 外国人留学生国別一覧

平成 30 年 5 月 1 日現在

地域・国名等	学 部	大 学 院		合 計
		修士課程	博士後期課程	
アジア (19)				
インド	2	1	6	9
インドネシア	9	7	13	29
カザフスタン			1	1
韓国	21	11	21	53
カンボジア		2	1	3
シンガポール	1			1
タイ	7	5	5	17
台湾	1	5	5	11
中国	92	95	73	260
香港		2		2
ネパール		1	4	5
パキスタン			3	3
バングラデシュ			3	3
フィリピン	1			1
ベトナム	3	1	6	10
マカオ	1			1
マレーシア		2	8	10
ミャンマー		2	11	13
モンゴル	4		1	5
ヨーロッパ (5)				
イタリア			1	1
オランダ			1	1
ギリシャ		1		1
フランス			1	1
ブルガリア			1	1
アフリカ (10)				
ウガンダ		2		2
エジプト	5	1	2	8
カメルーン		1		1
ケニア		1		1
コンゴ民主共和国		1		1
ジンバブエ		1		1
セネガル		1		1
ブルキナファソ		1		1
モロッコ		1		1
リベリア		1		1
オセアニア (1)				
フィジー		1		1
中東 (4)				
アフガニスタン			1	1
イラン		1	5	6
オマーン		1		1
トルコ	1		2	3
北アメリカ (3)				
アメリカ合衆国		2	1	3
カナダ	1	1		2
メキシコ		1		1
中央アメリカ (2)				
コスタリカ		1		1
パナマ			1	1
南アメリカ (4)				
コロンビア			1	1
ブラジル	3	1	1	5
ボリビア			1	1
ペルー		1	2	3
ユーラシア (1)				
ロシア		1		1
合計 (49 国・地域)	152	157	182	491

3. 外国人研究留学生等受入状況 平成 30 年 5 月 1 日現在

地域・国名等	区分	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	短期交流学生	合計
アジア (9)						
インドネシア		1	2			3
韓国		2	2			4
シンガポール			1			1
タイ			1			1
台湾			1			1
中国		9	2	4	1	16
ネパール		2				2
バングラデシュ		1				1
フィリピン		1				1
ヨーロッパ (5)						
イギリス		1				1
イタリア			1			1
オランダ			1			1
ドイツ			2	1		3
フランス			2	1	5	8
北アメリカ (2)						
アメリカ合衆国			1			1
カナダ			2			2
南アメリカ (2)						
ブラジル			1			1
ペルー		1				1
合計 (18 カ国)		18	19	6	6	49

4. 招へい外国人学者等受入者数 平成 30 年 5 月 1 日現在

地域・国名等	区分	招へい外国人学者	外国人共同研究者	外国人研究員	合計
アジア (5)					
インド		4	3		7
韓国		1	1		2
台湾			2		2
中国		5	9		14
ミャンマー		1			1
ヨーロッパ (6)					
イタリア			1		1
英国		1			1
オランダ			1		1
スイス			1		1
スペイン			1		1
フランス			2	1	3
中東 (1)					
トルコ			1		1
北アメリカ (1)					
アメリカ合衆国		1	3		4
アフリカ (1)					
モザンビーク			1		1
合計 (14 カ国・地域)		13	26	1	40



B クラスター階段雪景色



福利厚生棟雪景色



生協ウッドデッキテラス



船井哲良記念講堂



A クラスター内回廊

5. 部局間交流協定締結機関

平成 30 年 5 月 1 日現在

地域・国名等 区 分	機 関 名	学術交流協定 締結年月日	学生交流協定 締結年月日
アジア (9)			
インド	国立学際科学技術研究所	2017. 5.24	
インドネシア	ブラウィジャヤ大学 工学部・工学研究科	2017. 2. 6	2017. 2. 6
	ムハマディア大学ジョグジャカルタ校	2017.11.30	2017.11.30
韓国	韓国科学技術院 工学部・工学研究科		2002.11. 4
	慶熙大学校工学部	2016. 1. 7	2016. 1. 7
タイ	アジア工科大学 工業技術研究科等		2017. 6.16
	キングモンクット工科大学トンブリ校 (エネルギー環境合同大学院大学 (JGSEE))	2009.10.19	
	キングモンクット工科大学 ラカバン校	2009.11.24	
	マヒドン大学工学部		2018. 5. 4
台湾	国立成功大学 工学院	2006.11.21	2013.11.26
中国	大連理工大学	2003. 7. 3	
	同済大学大学院	2005.12.31	
	東南大学研究院	2016. 3.31	2016. 3.31
	香港城市大学 理工学研究科	2013. 1.22	2013.11.28
	香港大学 工学部・工学研究科	2016. 9.30	
ベトナム	ハノイ土木工科大学	2005.12.24	
マレーシア	マレーシア工科大学 建築都市環境学部等	2009.10.14	
ミャンマー	マンダレー工科大学		2017. 9. 7
ヨーロッパ (10)			
英国	バーミンガム大学 工学研究科等	2003.12. 5	
オランダ	デルフト工科大学	1998. 1. 1	
スイス	スイス連邦工科大学 チューリッヒ校		2010. 7.15
スウェーデン	チャルマーシュ工科大学	2002.12.19	
	リンシェーピン大学	2009.11.26	2009.11.16
チェコ	チェコ工科大学	1992. 7. 1	
ドイツ	ハインリヒ・ハイネ大学 (デュッセルドルフ) 有機化学及び高分子化学研究所	2002. 5.17	2002. 7.29
	ドルトムント工科大学 生物化学・化学工学部	2002.12.18	2003. 3.28
	カールスルーエ工科大学	2004. 3.22	
	フライブルク大学 工学部・工学研究科		2006. 1.30
	フライブルク大学 マイクロシステム工学部・工学研究科 (アメリカ合衆国・ミシガン大学を含めた3大学間協定)	2004.10.30	
ノルウェー	ノルウェー科学技術大学	1990. 9. 1	
フランス	グルノーブル理工科大学	1991.11.18	1999. 6.23
	国立パリ建築大学ラ・ヴィレット校	2016. 3.24	2017. 6.22
	ピエール・マリー・キュリー大学 (パリ第6大学)	1992.11.10	
	レンヌ第一大学 SPM・ESIR	2016. 3.10	2016. 3.11
	レンヌ第一大学 IUT de Lannion		2016. 3.21
	地球物理学パリ研究所	2013.12. 5	
ポーランド	AGH科学技術大学	2015. 1. 8	
ロシア	ロシア科学アカデミー ベルナツキ地球化学・分析化学研究所	2013. 8.26	
北アメリカ (2)			
アメリカ合衆国	ウィスコンシン大学 マディソン校 工学部	1990. 8. 1	
	ワシントン大学 工学部	1991.10.15	
	テキサス大学 オースティン校 工学部	1991.12. 1	
	レンスラー工科大学 工学部	1995. 1. 1	
	フロリダ大学 教養学部・教養学研究科	2004. 4.26	
	ミシガン大学 工学部・工学研究科 (ドイツ・フライブルク大学を含めた3大学間協定)	2007.10. 1	
	フロリダ大学 工学部・工学研究科	2008. 6. 9	
	ニューヨーク・シティ大学 エネルギー研究所	2010. 5.18	
カナダ	ウエスタンオンタリオ大学 工学部・理学部	2004. 6.23	
南アメリカ (1)			
ブラジル	サンパウロ大学 工学部・工学研究科	2004. 6.16	
大洋州 (1)			
ニュージーランド	ウェリントン・ビクトリア大学 理学部・工学部・建築デザイン学部、 ロビンソン研究所、フェリエ研究所	2016. 9.23	2016. 9.23
アフリカ (1)			
エジプト	カイロアメリカン大学 理工学部、工学研究科	2017. 5.29	2017. 5.29
合計 (24カ国・地域)	50機関		

※協定の有効期間は、締結年月日より5年間で(一部例外あり)。詳細につきましては、下記にお問い合わせください。

学術交流協定－国際協力掛 (090gkokkyo@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp) 学生交流協定－留学生掛 (090kryugakusei@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

12. 教育・研究プロジェクト等

寄附講座

- 災害リスクマネジメント工学 (JR 西日本) 講座 平成 25 年度～
- 非鉄製錬学講座 平成 29 年度～
- 優しい地球環境を実現する先端電気機器工学講座 平成 29 年度～

共同研究講座

- インフラ先端技術産学共同講座 (旧：インフラ先端技術共同研究講座) 平成 26 年度～
- プロトニックセラミックス産学共同講座 (旧：PCFC 共同研究講座) 平成 27 年度～
- フロー型エネルギー貯蔵研究講座 平成 28 年度～

次世代人材育成事業 グローバルサイエンスキャンパス

- 科学体系と創造性がクロスする知的卓越人材育成プログラム 平成 26 年度～

他部局連携・大型プロジェクト (年間予算額 1 億円以上)

- 国家課題対応型研究開発推進事業元素戦略プロジェクト〈研究拠点形成型〉
 実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池の元素戦略研究拠点 平成 24 年度～
 構造材料元素戦略研究拠点 平成 24 年度～
- SIP (戦略的イノベーション創造プログラム)「エネルギーキャリア」
 アンモニア分解—燃料電池システムの要素技術開発と実証研究 平成 26 年度～



桂ホール



化学系図書室



C クラスター内構造実験棟

13. 工学部公開講座・オープンセミナー

「ひと・社会・工学ー工学のいまを知るー」をメインテーマとして、毎年一般市民の方々を対象にした「公開講座」と、中学生・高校生を対象にした「オープンセミナー」を開催しています。



平成30年度	街角でのヒューマンロボットインタラクション	神田 崇行
	再生可能エネルギーをためる蓄電池ー現状と将来展望ー	安部 武志
	環境工学の挑戦ーいのちまも生命を衛る水とトイレの話をしようー	清水 芳久
平成29年度	超巨大地震に備えるー鉄骨造建物の最新の取組ー	聲高 裕治
	昆虫の羽ばたき飛翔の流体力学モデル	稲室 隆二
	スピンを操るースピントロニクス事始めー	白石 誠司
平成28年度	気候変動による降水の変化と洪水・氾濫の予測	立川 康人
	化学現象の論理 ^{※1}	佐藤 啓文
	19～20世紀にかけての化学と物理ー電磁波や放射線が明らかにするもの ^{※2}	関 修平
	地震は予測できるか？ ー全球測位衛星システムのビッグデータ解析最前線ー	梅野 健
	火災に強い木造建築を造る	原田 和典
平成27年度	高機能エレクトロニクスとEシステム・インテグリティ	和田 修己
	地下を拓くートンネル技術の役割と進歩ー	朝倉 俊弘
	脳をよみ、脳をつくる	石井 信
	高温プラズマと核融合エネルギー研究の進展	福山 淳
平成26年度	地域居住文化と省エネ住宅デザイン	高田 光雄
	ことばと知識とコンピュータ	黒橋 禎夫
	自然に学ぶナノテクノロジー	平尾 一之
	リチウムイオン蓄電池反応解析の最前線	松原英一郎
平成25年度	都市防災シミュレーションの最前線	後藤 仁志
	巨大地震に備える	荒木 慶一
	ビックデータの検索と分析	田中 克己
	高分子の魅力ー新しい構造が生み出す革新機能ー	辻井 敬巨
平成24年度	情報、通信、そしてエネルギーを支える半導体 ー超低損失パワー半導体デバイス実現に向けた挑戦ー	須田 淳
	これからの自動車”Automobile in the Future”	塩路 昌宏
	確率統計からの情報学ーデジタルを支えるアナログ	田中 利幸
	廃棄物からエネルギーを回収しよう！	高岡 昌輝
平成23年度	一つ一つの分子を見る、触るー分子ナノテクノロジーー	松田 建児
	生物と電気と数学とー数理のメガネを通して生命システムを見るー	土居 伸二
	3D オーディオの最前線	伊勢 史郎
	エンジンの今とこれから	石山 拓二

※1：公開講座のみ

※2：オープンセミナーのみ

14. 図書関係

≫ 蔵書統計

平成 30 年 5 月 1 日現在

図書室名等		図書（冊数）			雑誌（タイトル数）		
		和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
1	共通・化学系（附属図書館配架分）	486	8,988	9,474	149	535	684
2	地球系図書室	23,697	39,493	63,190	1,119	1,139	2,258
3	建築系図書室	74,110	34,729	108,839	908	505	1,413
4	物理系図書室	23,229	58,606	81,835	299	932	1,231
5	電気系図書室	24,106	27,566	51,672	959	694	1,653
6	化学系図書室	8,682	27,368	36,050	80	381	461
合計		154,310	196,750	351,060	3,514	4,186	7,700



Bクラスターより京都市内を望む



桂キャンパス全景

15. 予算関係及び建物面積

》1. 予算額

区 分	平成27年度 (千円)	平成28年度 (千円)	平成29年度 (千円)	備 考
人件費	5,792,475	5,796,942	5,460,001	
物件費	1,775,626	1,868,212	1,836,314	
受託研究費（受入額）	3,504,200	3,100,530	2,346,682	
共同研究費（受入額）	742,486	695,710	640,392	
奨学寄附金（受入額）	322,146	427,058	355,432	
学術指導（受入額）	35,172	20,675	33,485	
科学研究費助成事業（受入額）	2,534,890	2,561,599	2,432,064	
その他補助金（受入額）	61,926	114,112	72,401	
その他の大型プロジェクト（受入額）	1,258,443	787,550	765,351	他部局と連携した大型プロジェクト等

》2. 建物面積

区 分	面積 (㎡)
①本部地区	
岡田記念館	240
電気総合館	1,843
物理系校舎	16,041
建築学科製図室	252
工学部総合校舎	4,816
総合研究実験棟	113
総合研究 3 号館	426
総合研究 4 号館	2,992
総合研究 5 号館	593
総合研究 8 号館	3,541
総合研究 9 号館 (A 棟)	664
総合研究 9 号館 (北棟)	4,613
総合研究 9 号館 (南棟)	1,367
総合研究 9 号館 (旧電気工学教室本館)	3,910
総合研究 14 号館 (旧土木工学教室本館)	484
その他	126
小 計	42,021

区 分	面積 (㎡)
②桂地区	
A クラスター A 1 棟	11,631
A クラスター A 2 棟	9,409
A クラスター A 3 棟	8,451
A クラスター A 4 棟	9,729
C クラスター C 1 棟	25,736
C クラスター C 2 棟	8,738
C クラスター C 3 棟	28,262
極低温センター	378
実験排水処理施設	63
EMセンター棟	2,803
桂インテックセンター棟	6,328
事務管理棟	4,695
C クラスター事務棟	295
イノベーションプラザ	2,775
その他	155
小 計	119,448

③宇治・大津地区	
原子核工学実験室	2,568
超空気力学実験装置室	670
航空工学科風洞実験室	817
総合研究実験棟	2,056
水質汚染制御実験室	789
附属流域圏総合環境質研究センター研究室	500
小 計	7,400

合 計 (①+②+③)	168,869
-------------	---------



ノーベル賞・フィールズ賞 受賞者コーナー



平成 30 年度版

京都大学大学院工学研究科・工学部 概要

【編集・発行】

京都大学桂地区（工学研究科）事務部 総務課企画広報掛

〒 615-8530 京都市西京区京都大学桂

Tel. 075-383-2010 <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

